

令和元年度 学校評価結果について

主に、生徒、保護者アンケートを中心に、「よく当てはまる」と「だいたい当てはまる」を合わせた値を肯定的回答、「あまり当てはまらない」と「当てはまらない」を合わせた値を否定的回答として集計・分析した。

1 回収率

生徒・学生	保護者	教職員
99.1%	94.8%	100%

2 実施期間

令和元年11月12日（火）～25日（月）

3 評価の高い項目・低い項目

1) 生徒、保護者ともに評価の高かった項目（80%以上）

「部活動は活発に行われている」

「有意義な学校行事がある」

「災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」

「学校生活は充実している」

「教育課程は、進路に適した科目選択ができる」

「学校行事は活発に行われている」

また、看護科のみの項目については、生徒、保護者ともに肯定的回答が88%を超えていた。

評価の高かった項目については概ね前年度と同じであるが、今年度は「学校生活は充実している」が加わった。これは生徒の肯定的回答が5.3ポイント上昇したことによる。

2) 生徒、保護者ともに評価の低かった項目（50%以下）

該当なし

前年度は「学校のウェブサイトを見ている・学校のウェブサイトは充実している」「M&Tタイムは自分の役に立っている・M&Tタイムの実施内容を知っている」の2項目が挙げられていた。

「学校のウェブサイトは充実している」と回答した保護者が6.8ポイント増加しており、今春行ったホームページのリニューアルや、学校行事や部活動での活躍を紹介する「白高ブログ」の更新回数の増加が功を奏しているものと思われる。

「M&Tタイムは自分の役に立っている」と回答した生徒が8.4ポイント増加した。前年度の本調査結果を受け改善を図ったことが増加の要因であると思われる。

3) 生徒、保護者に差が見られた項目（15ポイント以上の差）

①「いじめの早期発見に取り組んでいる・いじめ問題に対する取組方針が共有されている」

肯定的回答は、生徒 57.6%、保護者 37.8%であり特に保護者の肯定的回答の数値が低く、これはほぼ例年どおりの結果である。特に保護者の数値の低さについては、「わからない」と回答した割合が 33.9%と高いことから、項目の性質上、学校の取組が家庭に伝わりにくいことも肯定的回答が低い理由の一つと考えられる。

②「学校のウェブサイトを見ている・学校のウェブサイトは充実している」

生徒の肯定的回答が 23.2%とほぼ例年通りであるが、上記 2) で述べたように、保護者の肯定的回答が 6.8ポイント増加したことにより差が生じた。生徒の肯定的回答が低いのは、ウェブサイトが主に保護者や地域、中学生らを対象としているためである。今後はアンケート項目の変更も検討したい。

③「M&Tタイムは自分の役に立っている・M&Tタイムの実施内容を知っている」

生徒の肯定的回答が増加したものの、保護者の肯定的回答は 32.5%と低い数値となっている。保護者宛に全体発表会の案内を出すとともに、活動内容や実績を「白高ブログ」等で広く紹介し、周知を図っていく必要がある。なお、生徒の否定的回答は 37.9%と他項目と比較して高い数値となっていることから、より有用感を高めるための方策を検討すべきである。(少人数のグループでより焦点化した活動を行う・インプットを重視した活動を行う・それぞれの年次の段階に合わせた活動をデザインする・日程の再検討 等)

4) 生徒、または保護者に評価の低かった項目（50%以下） 上記で挙げたものを除く

生徒においては該当なし。

保護者においては「保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」（46.7%）の項目で、肯定的回答の割合が低い。自由記述にも同様の内容が見られるので、各種たよりや三者面談等で開かれた学校であることをアピールする必要があるかもしれない。

4 前年度からの変動の大きかった項目等（5ポイント以上）

1) 生徒アンケートについて

【肯定的回答増加】

「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」

「教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている」

「地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」

「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」

「自分にとって学校生活は充実している」

「M&Tタイムは自分の役に立っている」

「事務室の窓口は丁寧に対応している」

「看護の基本的知識や看護技術の習得ができる指導が行われている」

前年度は「地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」（5.9ポイント増）、
「M&Tタイムは、自分の役に立っている」（6.7ポイント減）の2項目であったが、今年度は

8項目が5ポイント以上増加していた。学校が行っている様々な取り組みが生徒に浸透し評価されているようである。

2) 保護者アンケートについて

【肯定的回答増加】

「学校のウェブサイトは内容が充実している」

前年度は該当なし。分析については前述3-2)のとおり。

3) 教職員アンケートについて

【肯定的回答増加】

「Classiの活用を進めている」

「M&Tタイムは生徒の学習や進路や生き方に役立っている」

「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」

「学校運営を円滑に行うことができるように予算配分している」

「事務的な必要情報をその都度、職員等に分かりやすく説明している」

【肯定的回答減少】

「支部PTAは学校と家庭の相互理解の場として役立っている」

「生徒の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」

「図書館資料の充実と読書環境の整備に努めている」

「読書の啓蒙及び読書習慣の育成に努めている」

「(2年次) 日々の授業を大切にす指導を行っている」

「(2年次) 基本的な生活習慣を身につけさせる指導を行っている」

「(2年次) スタディーサポート・模擬試験の分析を行い、弱点分野の補強を行っている」

肯定的回答の割合を昨年度と比較した場合、特に大きく変動が見られた項目として、「Classiの活用を進めている」(11.5ポイント増)については、今年度より採用学年が増え委員会が発足する等、学校全体で組織的に活用を進めるようになったことが要因として考えられる。一方で、連絡ツールとしての利用の仕方(情報を取捨選択するのが難しい等)や保護者向けの使い方の周知等、様々な課題もみられるので、次年度以降さらに効果的に利活用できるよう整備を進めていく必要がある。また、「M&Tタイム」(11.3ポイント増)は2年間実施して様々な成果や課題が得られているところである。今後は生徒や担当者の声を適宜取り上げながら、次年度の計画作成に生かしていくことが望まれる。一方で、肯定的回答の割合が減少している項目については、担当分掌を中心に次年度対策に向けて検討を図っていく必要があると思われる。